

## 北海道における養老事業の展開と今日的意義

—札幌・小樽・函館における養老事業から老人福祉に至る展開を中心に—

○ 文京学院大学 鳥羽美香 (2910)

小笠原祐次 (社会福祉法人多摩同胞会・921)、岡本多喜子 (明治学院大学・252)、中村律子 (法政大学・795)、中村英三 (長野大学・4368)、西田恵子 (常磐大学・1970)、仁禮智子 (岐阜県庁・6212) 曲田志保子 (松山東雲女子大学・1317)、福馬健一 (江戸川大学総合福祉専門学校・5983)、西村圭司 (江戸川大学総合福祉専門学校・7833)、古屋博子 (飛鳥晴山苑地域包括支援センター・7255)、張珉榮 (明治学院大学大学院・8381)

キーワード：北海道開拓、養老事業、施設形成史

### 1. 研究目的

北海道における高齢者福祉の展開は、明治期以降の養老院の実践からその足跡を辿ることが出来る。特に明治期以降発展してきた札幌、小樽、函館等の都市を中心とした養老事業の展開は、今日における北海道高齢者福祉の基盤を形成したものといえよう。

明治期、北海道開拓で夢破れ、貧困に陥った人々が増加していった時代背景の中、特に「老幼疫疾無告ノ窮民」と呼ばれた高齢者や孤児、障害者の増加がみられ、当初は養老院ではなく、孤児院や窮民救済から社会事業を出発させた施設も多かった。また、函館慈恵院 (現・函館厚生院) の仲山興七、小樽孤児院 (現・小樽育成院) の中島武兵等に代表されるように、個人の篤志家がその出発点において重要な役割を担っていた。

本研究においては、わが国の高齢者福祉、特に施設形成史研究の一部として、特徴的な展開をみせた北海道の施設史に焦点を当てる。

北海道の主な養老事業の形成過程を踏まえ、それぞれの時代の要請に添って発展してきた養老事業の展開を見ること、さらに今日に繋がる高齢者福祉施設実践の役割・意義について検討することが本研究の目的である。

### 2. 研究の視点および方法

北海道における社会事業の発展は、その端緒は、窮民救済にみる事が出来る。小樽において明治31年に小樽孤児院、函館においては、明治33年に函館慈恵院 (函館厚生院) が創設されている。小樽孤児院は、孤児の救済から出発し、その後小樽育成院と改称し、事業規模を拡張しながら、昭和2年に養老部を併設した。また、窮民救済事業から出発した函館慈恵院は、その後、児童数が増加し、明治37年育児部を増設し、育児教育と窮民救護、行旅病者取扱に分かれた。さらに、大正時代に入ると大正14年に札幌養老院 (現・札幌慈啓会) が設立されている。このように、開設当初は窮民あるいは孤児救済事業から出発し、その後機能分化していく中で養老部、育児部が出来るという形態をとった施設もあった。

以上小樽育成院、函館慈恵院 (函館厚生院)、札幌養老院 (札幌慈啓会) の3つの養老院は北海道内において歴史のある高齢者福祉施設として、現在も継続して運営を行っている

る。本研究においては、北海道内の養老事業に関する文献研究を行った上で、これら現在も継続して運営をしている小樽育成院、函館厚生院、札幌慈啓会等を中心に、現存する資料を調査し、設立の経過、設立時の事業内容、入退院の経過、理由等について詳細に検討する。さらに戦前期から戦後にかけての北海道の高齢者福祉の状況について、老人福祉法制定時に設立された黒松内つくし園等施設の関係者からの聞き取り調査を実施し、明治期から出発した北海道養老事業の発展過程と戦後以降の状況の比較と分析を行う。

### 3. 倫理的配慮

小樽育成院、札幌慈啓会、黒松内つくし園等の資料収集、聞き取り調査に関しては各施設の許可を得て実施し、個人情報に関しては個人と特定出来ないように匿名化し記述する。

### 4. 研究結果

北海道における養老事業から老人福祉法に至る第1次資料の収集は、これまで必ずしも充分に行われてこなかった分野であり、戦災等で資料が散逸している状況も踏まえると、現存している資料は大変貴重な資料である。以下の資料について検討、分析を行った。

#### 1. 各施設の開設時から今日に至る事業経過の流れ

明治期、あるいは大正期に始まった養老院における事業展開がどのような経過を辿ったのか、設計図面等の建築関係資料、事業報告、文書、年史等から経過を詳細に検討した。

#### 2. 各施設における入退院状況とその理由

各施設の入退院記録をもとに、入退院時の年齢、性別、職業や家族状況、生活困窮の状況等について考察し、北海道における養老院の役割を時代の経過を踏まえ、検討した。

#### 3. 各施設における利用者処遇の特徴

各施設の資料をもとに行事、日常生活における食事、入浴、諸活動等の様子から、養老院の利用者の生活状況について考察した。

#### 4. 時代に応じた施設の役割について

戦前期から戦後の引揚等の状況を踏まえ、戦後の老人福祉法制定前後に至る状況と、各施設の果たした役割について資料と聞き取りをもとに検討した。

#### 5. 北海道における養老事業の特徴

以上をもとに戦前期と戦後期に分け、養老事業の展開について概観した。

### 5. 考察

資料の分析と聞き取り調査をもとに北海道高齢者福祉の特徴、施設実践の果たしてきた役割、意義を明らかにした。特に戦前期は北海道の開拓をめぐり、激動の時代の中、生活困窮者の急増で救済事業の展開が急務であり、それに対応した各施設・事業の取り組みが見られた。また、戦後養老事業から老人福祉法に移る経過の中で、戦前期に創設された各施設の果たした役割は大きく、北海道における高齢者福祉の基盤形成の一翼を担っていた。